1.　評価報告概要表

評価確定日　平成21年2月2日

【評価実施概要】

事業所番号	2270300599
法人名	有限会社　源氏陸運
事業所名	グループホーム源氏庵
所在地 （電話番号）	伊豆の国市四日町346－2 （電　話）055-949-2255

評価機関名	静岡県社会福祉協議会
所在地	静岡市葵区駿府町1-70
訪問調査日	平成20年11月7日

【情報提供票より】（ 20年　10月　25日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成　16年　3月　1日	
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計　18　人
職員数	14　人	常勤　6 人，非常勤　8 人，常勤換算　10 人

（2）建物概要

建物形態	併設／単独	新築／改築
建物構造	軽量鉄筋　造り	
	2階建ての1階部分	

（3）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	50,000　円		その他の経費（月額）	無
敷　金	有（200,000　円）		無	
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（　円） 無		有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	400　円	昼食	400　円
	夕食	400　円	おやつ	100　円
	または1日当たり　円			

（4）利用者の概要（ 20年　10月　25日現在）

利用者人数		16 名	男性　5 名	女性	11 名
要介護1		2 名	要介護2		1 名
要介護3		8 名	要介護4		3 名
要介護5		2 名	要支援2		0 名
年齢	平均	83 歳	最低	54 歳	最高　94 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	花の丘診療所

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

利用者も職員も自然に自分らしくありたいと考え、「自然に自分らしく共に生きよう源氏庵」を運営理念に掲げ、利用者に喜ばれるサービスを目指している。近隣に小学校、警察署、スーパー等があり、開設当初から地域の理解と協力が得られている。管理者家族がホームで共に暮らし、利用者と職員という関係を越えた「第二の家族」としての関係が自然と育まれている。2ユニットの中で、利用者は共有スペースで日中過ごし、それぞれがゆったりと生活している。今後は、運営推進会議の場を活かし、更に地域に密着したサービスが行われる事を期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①

前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）

前回の評価結果を全職員に報告し、改善課題項目に対して真摯に取り組み改善の方向に向け努力している。3項目は改善が認められたが、介護計画の見直しや災害対策等の改善努力と共に新たに運営推進会議への取り組みや利用者の思いや意向の把握についても改善に向け取り組んでほしい。

今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）

職員全員で意見を出し合い取り組んだ。外部の視点を取り入れることで、自らのサービスを振り返る機会とし、ステップアップに向けて前向きに取り組んでいる。

重点項目②

運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）

2ヶ月に1度定期的に開催されている。家族、地域住民、市担当者、民生委員等が参加し、ホームの運営状況や災害対策等の課題について意見交換が行われている。しかし、運営推進会議の場を有効に活用できているとまでは、言えず職員も模索している。他の事業所などの取り組み等を参考に、ホームで抱える問題を地域ぐるみで話し合い、理解と協力が得られる関係が深まる事を期待したい。

重点項目③

家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）

利用料の支払いがホーム持参払いのため、月1度は家族と直接話す機会が持つことができ、電話や手紙という方法ではなく、直接会って話すことを大切に考えている。面会時には、日頃の状態を報告すると共に、新たな要望や苦情が無いか確認している。また、苦情相談窓口を重要事項説明書に明記し、契約時説明しており、家族からの意見は、サービスに活かされている。

重点項目④

日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）

ホームで使用する、食材の多くを地域の農家や店から購入し、地域の小学校やボランティアの受け入れも行っている。また地域の文化祭、敬老会、運動会などにも参加しており、文化祭の作品展示は、利用者にとっても楽しみになっている。今後も交流を深める中で、認知症への理解やグループホーム事業を知ってもらう機会を作り、利用者が地域の中で変らぬ生活が続けられるよう継続して取り組まれたい。

2. 評 価 報 告 書

（ ▒ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者も職員も自然体でありたいと考え、全職員で話し合って「自然に自分らしく共に生きよう　源氏庵」を運営理念として掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念はホームの共有スペースに掲示したりパンフレットに掲載している。また理念を全体のミーティング等でくり返し確認をしながら、サービス提供を行うように努めている。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	食材の多くを地域の農家や店から購入している。また、小学校やボランティアの受け入れも行っており、地域の文化祭、敬老会、運動会等に参加し、交流を図っている。なかでも文化祭の作品展示は、利用者にとっても楽しみになっている。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全体のミーティングで、数回に分けて自己評価を行った。職員で意見を出し合い、サービス内容を振り返る機会として役立てている。評価の意義を理解し、評価結果を受け、次のステップに活かす取り組みを行っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度定期的に開催し、家族、地域住民、市担当者、民生委員等が参加している。会議の中でホームの運営状況や災害対策等の課題について意見交換が行われている。	○	ホームで抱える問題を地域ぐるみで話し合い、理解と協力が得られる関係が深まる事を期待する。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域ケア会議や運営推進会議等で運営状況やサービス内容について意見交換を行っており、良好な関係が築かれている。会議以外でも随時、連絡や報告を行っている。		
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用料の支払いはホームへ持参払いとし、月１度家族と直接会って話す機会を大切にしている。面会時には、日頃の状態等を報告すると共に、新たな要望や苦情がないかを確認している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を重要事項説明書に明記し、契約時に説明している。日頃から積極的にコミュニケーションを持つ事で、意見の出しやすい関係作りに努めている。また、家族からの意見は真摯に受け止め、サービスに活かされている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設当初から、離職者が少なく馴染みの関係作りを築いている。退職した職員も気軽に訪問できる雰囲気があり、職員も働きやすさを感じている。管理者と職員は率直に意見交換でき、共に質の向上を目指した良好な関係が作られている。		
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の情報を提供し、希望者を募って交代で参加している。月１回開催するミーティングでは、その時必要な課題に合せた勉強会も実施している。また、資格取得にも協力し、勤務調整を行う等職場環境を整えている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議等で、互いの運営状況や情報交換を行っている。また、地域の事業所の職員がホームに訪れる機会も多く、意見交換が行われている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームの見学を通し、雰囲気を感じてもらった上で利用に向けた話し合いを行っている。体験利用を勧めており、利用者の状態に合わせた期間（2週間～3ヶ月程度）を設けている。お試し利用中も家族等の協力を得て、利用者が安心して住み替えできるよう配慮している。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の関わりの中で、利用者の持つ経験や知識に触れる機会は多く、干し柿作りや裁縫、写経、年中行事等、利用者が中心となって、共に喜びを感じながら過ごしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	それぞれの生活歴を基に、日々の関わりの中から利用者の思いや意向を把握し、センター方式を用いてアセスメントを行っている。	○	利用者の言葉や生活における、こだわり、嗜好、習慣などの記載が少ないため、家族や友人からも情報を得て、生活を主体としたアセスメントが実施されることを期待する。
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	担当者が中心になって介護計画を作成し、全体ミーティング等で、ケア方針について話し合いが持たれている。	○	利用者を中心に、全ての関係者が話し合いを持ち、それぞれが望む暮らしの見える計画書が作成される事を期待する。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	前回の評価を受け、定期的に見直しを行っている。	○	介護計画の見直しはカンファレンスを行い、一つひとつの項目について検討、評価を行ってほしい。また、サービス内容の変更時には、新たに計画書を作成し、利用者及び家族に確認を得てサービスを実施されたい。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の要望に合わせて、かかりつけ医への受診や買い物等の外出支援を行っている。また、豪雨の際に家族の避難場所としてホームを開放する等、臨機応変に対応している。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にかかりつけ医の選択を行っている。現状では、ほとんどの入居者がホームの協力医を希望している。協力医との関係は良好で、情報提供や相談を行っている。また、受診の際は待ち時間が少ないよう予約診察や往診も受けられる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアを行ったケースがあり、利用者の希望に応じた対応を検討しながら医療との協力関係も確保されている。契約時、利用者、家族にも方針説明を行っており、今後も利用者、家族の立場に立って対応していきたいと考えている。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者へは自然に対応することを心がけ、地域性や個々に応じた言葉かけが行われている。また、個人情報の取り扱いは、職員間で十分に配慮し、適切に管理されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な日課はあるが、それぞれの希望に合わせ柔軟に支援を行っている。調査時も、作業やレクリエーションを行う人や居間でのんびりされている人等、ごく自然にゆったりと過ごされていた。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	地域で採れる食材を活かして献立を作成している。前もって献立を決めるのではなく、その日にある食材と利用者の希望を取り入れており、調理の下ごしらえや片付けは、利用者も参加している。食事中は、職員も共に食卓を囲んでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、それぞれの希望に合わせ、最低週2回は入浴してもらっているが、入浴中に髪染め等の希望があれば、入浴時間の個別対応を行っている。夕食後の入浴も希望に合わせ実施している。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	趣味や家事等の経験を活かした時間や子供たちとのふれあいの中で、張りのある日々を過ごしている。また、文化祭に出展する作品は、利用者が協力して作成しているため、楽しみになっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	1日1回は、外出する時間が持てるように散歩等を行っている。また、近所の食堂へ外食に出かけることもあり、個別の希望にも対応するよう努めている。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠を行う事の弊害について、十分理解し、基本的に施錠は行わず、自由に出入りが可能になっている。近隣の警察署の理解と協力も得られている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策については、必要性を十分理解しており、防災訓練の実施についても検討しているが、訓練の実施には至っていない。運営推進会議などの場で災害時の避難場所としてホームを開放する等の話し合いがもたれている。	○	防災訓練の実施について、引き続き地域住民と協議の上、実施することを期待する。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	野菜をふんだんに取り入れ、バランスを考えた食事を提供している。職員も一緒に食事をする中で、それぞれの摂取量を確認し、必要に応じて水分補給できる様に働きかけている。食事には、個々の嗜好品も取り入れ、習慣に合わせた対応も行なっている。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ほとんどの利用者が1つのユニットの共有スペースで過ごしている。共有スペースは、様々な装飾品や利用者の作品が飾られ、個性的で雰囲気のある作りとなっている。トイレや浴室も利用者の状態に合わせた作りになっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今までに使い慣れた物を持ち込んで使用している。できる限り、在宅で生活していたときの雰囲気づくりに努め、大きな環境の変化がないよう配慮している。また、居室の窓辺には、朝顔が植えられ、利用者が楽しめるよう工夫されている。		